

6

芝生の異常——こんな時は？

6-1 春先や秋口に丸い形で芝生が茶色くなる

春先や秋口に丸い形や丸が重なった形で、芝生が枯れたような状態になることがあります。

この現象は、『ラージパッチ』と呼ばれる芝生の病気で、土中の菌が原因で発症するものです。特に、ノシバやコウライシバで発生しやすい傾向があります。

1 ラージパッチへの対応策

- ラージパッチが発生しても、根やほふく茎は死んでおらず、2か月程度経過すると、ラージパッチが発生した場所が分からなくなるぐらいに回復するケースがほとんどです。
- 肥料散布と適切な散水で、芝生の勢いを戻してあげることが大切です。
- ラージパッチは、原因菌を食べてくれる菌が発生してくるため、年を経るごとに、徐々に発生しにくくなります。



ラージパッチ発生時の状態
丸が重なる形で枯れたような状態になっています。 ↓



2か月経過した状態
地面の色が赤味を帯びているので、ラージパッチ発生箇所であったことがわかる程度で、葉は十分にえています。

6-2 キノコがたくさん出てくる

特に夏頃から秋口にかけて、芝生地にキノコ(菌類)が大量に発生することがあります。

代表的なものとして、シバフタケ、ホコリタケ類などがあります。シバフタケ、ホコリタケ類は、人体には無害ですが、芝生の病気の原因菌となります。しかし、校庭芝生において、病気による壊滅的な被害は発生していませんので、病害を過剰に心配する必要はありません。



ホコリタケ類。マシュマロによく似ています。

1 キノコ(菌類)の発生を減らすには

- 未分解の有機物が多いと、キノコ(菌類)が発生しやすくなります。こぼれた刈草がたまった層(サッチ)を取り除くことが効果的です。
- ホコリタケ類は、土壌が乾燥気味だと発生しやすくなりますので、散水を多めにします。
- 地上部に見えるキノコは、子実体で、胞子をたくさん含んでいます。可能な範囲で取り除いてください。

これらのキノコ(菌類)が多量に発生することで、土中に菌糸が張り巡らされてしまう結果、土壌に撥水性が生じることがあります。

特に、ホコリタケ類は、暑さが本格化する梅雨明け頃(夏休みの始まりの頃)に大量に発生してきます。水をたくさんあげても、芝生に元気が戻らない時は、土壌の撥水性を疑ってください。



左側が土壌に撥水性が生じて、芝生が黒っぽく見える状態

2 土壌に撥水性が生じた時は

● 判断の仕方

土壌を掘りとり、水を数滴たらし、水が吸い込まれずに玉になって転がっていくようであれば、土壌に撥水性が生じています。

● 見え方の特徴

土壌に撥水性が生じている場合には、芝生が黒っぽく見えることがあります。

● 対応策

- ① ハンドエアレーターなどで、地表に軽く細かい穴を開ける。
- ② 移動式の簡易スプリンクラーなどを用いて、少量で長時間の散水をする。
- ③ 土壌に水が染み込むか確認する。



簡易スプリンクラーの例

6-3 夏休みの終わり頃から芝生が急激に茶色くなる

特に夏休みの終わり頃から9月中旬頃にかけて、芝生が一夜にして、茶色く変わっていくことがあります。このような現象が出た場合には、シバツトガやスジキリヨトウなどのガの幼虫の食害である可能性があります。

シバツトガやスジキリヨトウなどのガの幼虫は、昼間は土中に潜っており、夜間に地表に出てきて、主に芝生の葉を食べます。パミュダグラスにおいて多く見られます。

1 ガの幼虫による食害の判断のポイント

- 大きな食害の発生時期は、8月下旬から9月中旬頃に集中。



芝生地にムクドリ(鳥類)が多数飛来します。

2 食害発生後の対応

- 根や茎は、ほとんどが生きている状態であるケースが大半なので、肥料散布とこまめな散水を実施して回復を促します。食害発生から20日間ぐらいで、おおむね回復します。

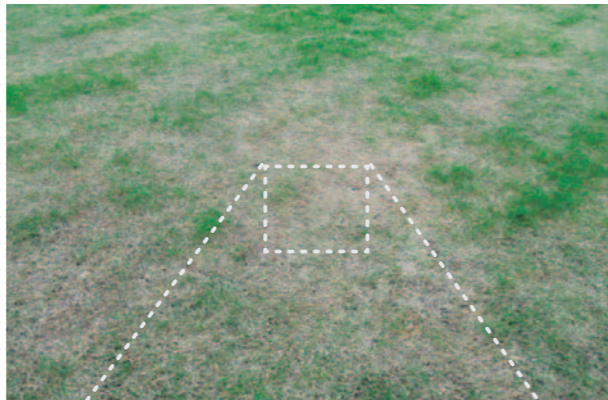


スジキリヨトウの幼虫

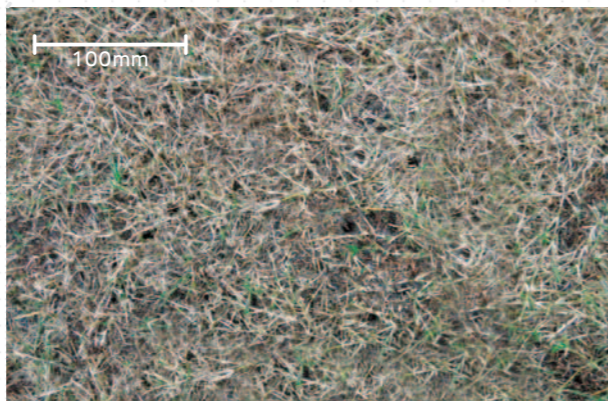
その他の虫による被害

ケラ 主に夏の終わりから秋にかけて見られます。芝生地に坑道を掘り、芝生が傷められたように見えますが、芝生の生育に対する影響は軽微ですので、過剰な心配はいりません。

コガネムシ類の幼虫 地中で成長し、芝生の根を食べます。多数が生息(1㎡あたり50頭以上など)している場合に被害が生じ始めます。少数なら放置しても心配ありません。



食害の発生状況。一夜にして、芝生が茶色くなる範囲が大きく広がります。



ペンで刺したような小さな穴が無数にあります。葉がなく、ほふく茎が残っています。

6-4 サッチやコケのようなものたくさんある

サッチとは、芝刈りの際に刈草がこぼれ、分解せずに層状になったものです。サッチがたまると、水の浸透性が落ち、芝生の生育が弱まったり、芝生の病気が起こりやすくなったりします。

スプリンクラーヘッド周りや表面排水が集まるような湿りがちな場所では、イシクラゲ(ヌルヌルとしたラン藻類)が繁殖することがあります。イシクラゲは、芝生の生育を阻害します。

2 サッチの除去

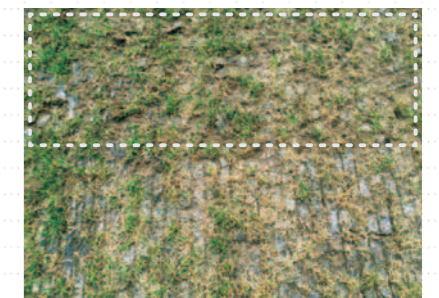
- サッチの除去については、バーチカルカットをかけてサッチ層を浮かせ、ロータリー式芝刈り機などで、浮いたカスを回収する手法が一般的です。



金属製のクマデ。硬いサッチには掻き幅を絞ると効果的です。



サッチ除去のためにバーチカルカットをかけた状態



写真の上の部分は、クマデでサッチを除去した様子

3 イシクラゲの抑制



やや乾燥したイシクラゲ。クマデで剥がせる状態

1 サッチの防除

- 芝刈りの際に、普段から刈草をこぼさないようにすることが大切です。ボランティア活動でよく使われている手動のリール式芝刈り機は、刈草をこぼすことが多いので、注意が必要です。
- 定期的にエンジン式のロータリー式芝刈り機を使って、こぼれた刈草を回収しましょう。
- 梅雨明け頃に、一斉に枯れた冬芝がサッチのように地面を固めてしまうことがあります。冬芝は5月頃から短く刈って、夏芝への切替えを促進させましょう。

- 梅雨明け以降に冬芝が一斉に死んで層になったものは、バーチカルカットでは十分に剥がせないことがよくあります。金属製のクマデで引っ掻いてサッチ層を剥がす手法があります。

- イシクラゲは、水分さえあれば、コンクリートの上でも増殖します。このため、完全な防除は極めて困難です。
- イシクラゲの抑制の基本は、排水を良くすることです。
 - ① エアレーションを実施して透水性を良くする。
 - ② 目砂で排水勾配をとり、表面排水を促す。
- 補植地などにイシクラゲが繁殖している場合、ほふく茎が伸びていきません。
- 直接的な除去方法としては、乾燥させてからクマデで引っ掻いて浮かせ、ロータリー式芝刈り機で吸い上げる方法があります。

6-5 雑草対策

1 雑草対策のポイント

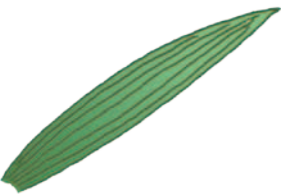


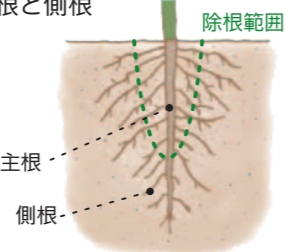
- 雑草の除草を行うには、その雑草の特徴を知ることが重要です。
- 雑草の種子の供給源を絶つため、芝生地の周辺も除草することが重要です。
- 芝刈りをマメに行うことが、最も効果的な対策です。
- ① 芝生の密度が高まることで、雑草の種子が地面に落ちにくく、発芽率が低下します。
- ② 雑草の種子を芝刈りにより回収することができます(雑草の花期を知ることが重要)。
- ③ 雑草の生育の勢いを抑えることができます。

2 除草のための基礎知識とポイント

● 一年草・多年草による違い

| 区分 | 繁殖方法 | 除草のポイント |
|-----|---|--|
| 一年草 | <ul style="list-style-type: none"> 種子で増える。 植物体は、1年で枯れる。 | <ul style="list-style-type: none"> 芝刈りで、種子を結実させない。 植物本体は、なるべく除草する。 |
| 多年草 | <ul style="list-style-type: none"> 種子と根茎などで増える。 植物体は、冬でも地上部が残るか、地上部が枯れても地下茎などが土中に残り、そこから再び芽が出てくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 芝刈りで、種子を結実させない。 植物本体は、確実に除草する必要がある。 |

● 単子葉植物・双子葉植物による違い

| 区分 | 葉の脈の形 | 根の形 | 除草のポイント |
|--|--|--|---|
| 単子葉植物 オヒシバ スズメノカタビラ など | 並行  | ひげ根  | <ul style="list-style-type: none"> ひげ根を残しても再生することは少ないので、地際で刈り取る。 ※ 例外あり |
| 双子葉植物 タンポポ シロツメクサ オオバコ など | 網目状  | 主根と側根  | <ul style="list-style-type: none"> 主根をなるべく深く取り除く。 |

3 主な雑草と特徴



オヒシバ 一年草・単子葉植物。生育期間：4月～10月。花期：7月～9月。芝刈りによって平たく生育する。地際で刈り取ればよい。



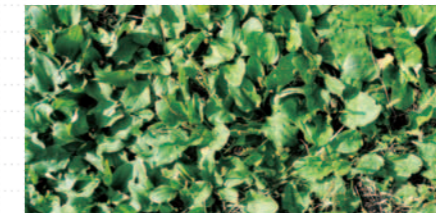
メヒシバ 一年草・単子葉植物。生育期間：4月～10月。花期：8月～9月。芝刈りによって平たく生育する。ほふくしやすい。地際で刈り取ればよい。



スズメノカタビラ 一年草・単子葉植物。生育期間：10月～7月。花期：2月～7月。冬型に緑色。花期が長いので、種子量が多い。地際で刈り取ればよい。ただし数が多いのが普通。



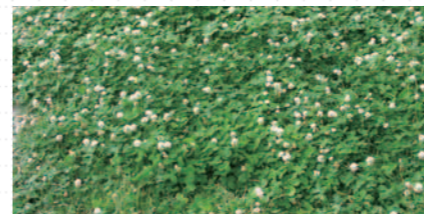
ハマスゲ 多年草・単子葉植物。生育期間：5月～11月。花期：7月～10月。生長が速い。地下茎の先に塊茎をつくり、増える。塊茎を取り除かないと再生する。



オオバコ 多年草・双子葉植物。生育期間：通年。花期：4月～6月。種子が靴について生育範囲が広がる。主根は太いが短く、比較的除根しやすい。



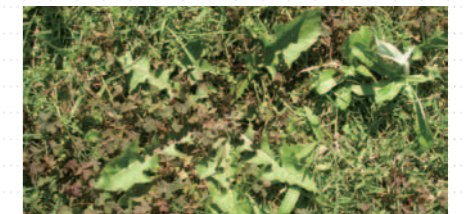
カタミ 多年草・双子葉植物。生育期間：通年。花期：5月～11月。ほふくして広がる。基部の地下に球根と肥大した根がある。球根などを取り除かないと再生する。



シロツメクサ 多年草・双子葉植物。生育期間：通年。花期：4月～7月。ほふくして広がる。ほふく茎の節から根を下ろす。ほふく茎の基部の根を取り除かないと再生する。



チドメグサ 多年草・双子葉植物。生育期間：通年。花期：6月～9月。ほふくして広がる。根は浅いが、ほふく茎から多数の根を下ろすので、除根しにくい。



セイヨウタンポポ 多年草・双子葉植物。生育期間：通年。花期：3～5月、10～11月。キク科に属する種は、主根が長いものが多い。深い位置で主根を除根しないと再生する。

4 除草が追いつかない場合

- 除草が追いつかない場合は、芝刈りを行って雑草の勢いを弱めましょう。雑草が芝生のように見える効果も得られます。



オヒシバが比較的多い状況



芝刈りをする、一面芝生のように見えます。